

## 第10回日本クリティカルケア看護学会学術集会開催報告

名古屋市立大学看護学部：

嶋田 理 佳<sup>1)</sup> (学会事務局長)

伊藤 裕 子<sup>2)</sup> (会計)

明石 恵 子<sup>1)</sup> (学術集会会長)

第10回日本クリティカルケア看護学会学術集会を2014年5月24日・25日に名古屋国際会議場にて開催しました。“いのち”“ひと”“とき”をつなぐ、というメッセージをこめたテーマ「つなぐ・ひろげる クリティカルケア看護」のもとにクリティカルケア看護に熱い思いを抱く多くの人々が一堂に会して、活発な情報交換を行いました。ここに、本学術集会の開催報告をいたします。

### 1. 学術集会の概要

#### 1) 開催の目的

一般社団法人日本クリティカルケア看護学会は、これまでクリティカルケア看護の専門性の確立と質の向上を目指してさまざまな活動を行い、その成果を学術集会やセミナー等で発揮してきました。しかし、クリティカルケア看護は集中治療室や救急初療室で行われる特殊な看護、あるいは医療機器や薬剤の管理というイメージが強く、クリティカルケア看護実践が他領域の看護師や他職種、そして市民の方々には理解しがたいという現実もあるように思います。そのようななか、学会設立10周年となる本学術集会では「つなぐ・ひろげるクリティカルケア看護」をテーマとしました。そして、救急医療や集中治を必要とする人々の『命を尊び、命を護る看護実践』、他領域の看護師や医療従事者、施設、地域といった『人・組織との協働と連携』、知識の蓄積や臨床知の言語化、新しい技術開発など『過去を知り、未来をつくる教育研究』、この3つの視点でクリティカルケア看護の新たな可能性を探り、それを社会に発信することをねらいとしました。(図1)



図1 学術集会のポスター・チラシのデザイン

3つの輪はそれぞれ“いのち”“ひと”“とき”を示し、これらが重なり合うことは『つなぐ』を意味している。デザインには学術集会のサブテーマ「いのち：命を尊び、命を護る看護実践」「ひと：人・組織との協働と連携」「とき：過去を知り、未来をつくる教育研究」のメッセージが込められている。

1) 名古屋市立大学看護学部

2) 元名古屋市立大学看護学部

第10回日本クリティカルケア看護学会学術集会開催報告

会場	第1日:2014年5月24日(土)					第2日:2014年5月25日(日)					会場		
	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	ポスター展示会場	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場		第5会場	ポスター展示会場
施設名	白鳥ホール	211+212 334席	224 228席	228 228席	431+432 240席	1122+223 232+233	白鳥ホール	211+212 334席	224 228席	228 228席	431+432 240席	1122+223 232+233	
8:00	受付 8:00-16:30 クローク 8:00-17:45						受付 8:00-15:00 クローク 8:00-16:30						
9:00	8:50~ 開会式 会長講演 「いのち」「ひと」「とき」をつなぐクリティカルケア看護 8:50-9:30												
10:00	特別講演 これからのクリティカルケア 9:50-10:30						シンポジウム3 あななも管理者に求められるリソースに なれる！						
11:00	教育講演1 クリティカルケアへの現象学的アプローチ 10:40-11:40	教育講演3 クリティカルケア領域での高齢者ケア 10:40-11:40	口演 第1群 「呼吸・循環管理」 (5題) 10:40-11:40	口演 第4群 「せん妄」 (5題) 10:40-11:40	交流セッション1 (公券) (暫定版)人工呼吸器 ウィングプロトコール 10:40-11:40	ポスター掲示 10:40-11:40	教育講演6 臨床推論を看護に 活かそう 10:30-11:30	シンポジウム3 あななも管理者に求められるリソースに なれる！ 9:30-11:30	ブラクティクスセミナー2 患者に優しい臨床推論 セミナー 9:00-11:30	口演 第7群 「家族看護」 (4題) 9:00-9:50	交流セッション4 (公券) 地域で認定看護師をつくる意義 9:00-10:10	示説 第4群 「看護教育」 (4題) 9:00-9:40	
12:00	共催セミナー1 テルモ 12:00-13:00	共催セミナー2 ホスピタリティ/丸石誠家 12:00-13:00	共催セミナー3 ハラマウント 12:00-13:00	共催セミナー4 キンバリークラーク 12:00-13:00	共催セミナー5 コヴィディエンジャパン 12:0-13:00		共催セミナー6 メディカ出版 11:50-12:50	共催セミナー7 エドワーズ 11:50-12:50		共催セミナー8 日本光電 11:50-12:50	共催セミナー9 ニプロ 11:50-11:50		
13:00							教育講演7 人工呼吸器離脱患者のcomfortを促進する看護 13:00-14:00	教育講演8 医療の安全と質向上に必要な医療対話推進者 13:00-14:00		口演 第6群 「鎮痛・鎮静」 (5題) 13:00-14:00	口演 第10群 「看護教育」 (5題) 13:00-13:50	交流セッション6 (公券) せん妄ケアの自然教室 13:00-14:00	ポスター交流セッション クリティカルケア領域のヒヤリハットをどう防ぐ -明日から使える予防策- 13:00-14:30
14:00	会員総会 13:10-14:00												
15:00	市民公開講演 生きる意味とつながる命-日本人のいのちを 14:30-16:00	教育講演4 クリティカルケア看護師に必要な「笑」の力 14:10-15:10	口演 第2群 「呼吸・循環管理」 (5題) 14:10-15:10	ナーシングサイエンス カフェ クリティカルケア看護で何ヶ命を救える看護を知らう 14:00-15:20	交流セッション2 (指定) クリティカルケア領域における薬剤師との連携 14:10-15:40	示説 第1群 「家族看護」 (5題) 14:10-15:00	シンポジウム2 Rapid Response System(RRS)-あなたの施設はどう？ 14:10-16:10	教育講演9 心臓リハビリテーション-重症・急性期からの介入とその後- 14:10-15:10	ブラクティクスセミナー3 クリティカルケアにおける説明と対話の文化の醸成-看護対話推進者の養成モデル- 14:10-16:10	口演 第11群 「その他」 (5題) 14:00-15:00	交流セッション7 (公券) せん妄スクリーニングツールの臨床活用上の工夫を共有する 14:10-15:10	ポスター掲示 15:00-16:00	
16:00		シンポジウム1 クリティカルケア領域で新人を育てるには？ 15:30-17:30	口演 第3群 「看護管理」 (5題) 15:20-16:20	口演 第5群 「せん妄」 (4題) 16:00-16:50	交流セッション3 (公券) ICU入室患者の記憶と精神状態に関する多施設共同研究の方向性の検討 15:30-17:00	示説 第2群 「呼吸・循環管理」 (4題) 15:10-15:50							
17:00	意思決定支援-納得して決めるためのケア- 16:30-17:30	教育講演2 意思決定支援-納得して決めるためのケア- 16:30-17:30	ブラクティクスセミナー1 ケアの力を呼び起こす臨床推論法の実音 16:30-17:30			示説 第3群 「その他」 (4題) 16:00-16:40	閉会式						
18:00													
19:00													

図2 プログラム

2) プログラム (図2)

学術集会の主なプログラムは教育講演、シンポジウム、交流セッション、ブラクティクスセミナー、一般演題、共催セミナーとしました。プログラムの企画段階では、各プログラムのテーマや内容が「命(実践)」「人(連携)」「時(教育・研究)」の3つのいずれに属するのかを確認し、決定の際には偏りが生じないようにバランスを考慮しました。

学術集会は開会式に続き、明石恵子集会長による集会長講演で幕を開けました。一般市民向けにはナーシングサイエンスカフェや市民公開講演会も開催し、多数の来場者を迎えました。

主なプログラムを以下に紹介します。

(1) 集会長講演

「いのち」「ひと」「とき」をつなぐクリティカルケア看護：明石恵子(名古屋市立大学)

(2) 特別講演

これからのクリティカルケア看護：井上智子氏(東京医科歯科大学大学院)

(3) 教育講演

①クリティカルケアへの現象学的アプローチ：榊原哲

也氏(東京大学大学院)

②意思決定支援 - 納得して決めるためのケア-：岩本ゆり氏(楽患ナース株式会社)

③クリティカルケア領域での高齢者ケア：藤田冬子氏(神戸女子大学)

④クリティカルケア看護師に必要な「笑」の力：池田由紀氏(名古屋市立大学)

⑤呼吸・循環管理に必要なモニターの見方・読み方：薊隆文氏(名古屋市立大学)

⑥臨床推論を看護に活かそう：山中克郎氏(藤田保健衛生大学)

⑦人工呼吸器離脱患者のcomfortを促進する看護：江川幸二氏(神戸市看護大学)

⑧クリティカルケアにおける説明と対話の文化の醸成-医療の安全と質向上に必要な医療対話推進者-：稲葉一人氏(中京大学法科大学院)

⑨心臓リハビリテーション-重症・急性期からの介入とその実際-白石裕一氏(京都府立医科大学附属病院)

(4) シンポジウム

①クリティカルケア領域で新人を育てるには？

②Rapid Response System: RRS - あなたの施設ではどう？

- ③あなたも管理者に求められるリソースナースになれる!
- (5)交流セッション (指定)
  - ①クリティカルケア領域における薬剤師との連携
  - ②クリティカルケア領域での小児のケアー呼吸・循環・栄養・鎮静、様々な疑問にお答えしますー
- (6)交流セッション (公募)
  - ①(暫定版)人工呼吸器ウィニングプロトコールの公開と今後の教育的展望
  - ②ICU入室患者の記憶と精神状態に関する多施設共同研究の方向性の検討
  - ③地域で認定看護師会をつくる意義ー繋ぐ・広げる集中ケア認定看護師の活動ー
  - ④せん妄ケアの白熱教室ークリティカルケア看護とリエゾン看護のコラボレーションでプロの技を洗練するー
  - ⑤せん妄スクリーニングツールの臨床活用上の工夫を共有する
- (7)ポスター交流セッション
  - ①クリティカルケア領域のヒヤリハットをどう防ぐか?ー明日から使える予防策ー
- (8)プラクティスセミナー
  - ①ケアの力を呼び起こす臨床瞑想法の実習: 大下大圓氏 (飛騨千光寺/京都大学大学院)
  - ②患者に優しい酸素療法: ネーザルハイフロー: 露木菜緒氏 (杏林大学医学部附属病院)
  - ③クリティカルケアにおける説明と対話の文化の醸成ー医療対話推進者の基礎的スキルー: 稲葉一人氏 (中京大学法科大学院)
- (9)一般演題
  - ①口演: 「呼吸・循環管理」(10題)、「看護管理」(5題)、「せん妄」(9題)、「鎮痛・鎮静」(5題)、「家族看護」(12題)、「看護教育」(4題)、「看護倫理」(4題)、「その他」(10題)、計59題
  - ②示説: 「家族看護」(5題)、「呼吸・循環管理」(4題)、「看護教育」(4題)、「看護倫理」(4題)、「その他」(7題)、計24題
- (10)共催セミナー (9題)
  - ①クリティカルケア領域における栄養療法はなぜ必要なのか?: 祖父江和哉氏 (名古屋市立大学大学院)
  - ②J-PADガイドラインのポイントと臨床への適応: 古賀雄二氏 (山口大学医学部附属病院)・茂呂悦子氏 (自治医科大学附属病

- 院)
- ③Creat “E”ー早期離床と運動を促す秘訣ー: 飯田有輝氏 (JA愛知厚生連海南病院)
- ④RST活動から考える、看護師に求められること: 杉原博子氏 (岐阜大学医学部附属病院)
- ⑤重症例における酸素代謝ー組織酸素代謝は何をみているのかー: 櫻井淳氏 (日本大学)
- ⑥「ひみつのICU」ー今夜何かが起こるー: 長嶺貴一氏 (北九州総合病院)
- ⑦循環管理の強い見方を見つけよう!ーパラメーターの有効活用ー: 市川崇氏 (名古屋大学医学部附属病院)・宮下照美氏 (藤田保健衛生大学病院)
- ⑧肺保護戦略に基づく人工呼吸管理: 高橋幸子氏 (名古屋掖済会病院)
- ⑨ICUでのオーラルマネジメント: 本家淳子氏 (磐田市立総合病院)
- (11)ナーシングサイエンスカフェ (図3)
  - クリティカルケア看護って何?ー命を護る看護を知



図3 ナーシング・サイエンスカフェのチラシのデザイン

ろうー

(12)市民公開講演会 (図4)

生きる意味とつながる生命 (いのち) -日本人のいのち観- : 大下大圓氏 (飛驒千光寺/京都大学大学院)

3) 参加者

本学術集会への参加者数は会員615名、非会員806名、学生6名の合計1,427名でした。また、愛知県内の病院、看護系大学等への呼びかけに応じて当日ボランティアとして大会運営に協力して下さった方はのべ111名でした。

4) 後援

本学術集会は愛知県、名古屋市、公益財団法人愛知県看護協会、中日新聞社の後援をいただきました。

ナーシングサイエンスカフェでは愛知県教育委員会、名古屋市教育委員会、公益財団法人愛知県看護協会の後援もいただきました。

5) 協賛企業

本学術集会へは多くの企業から協賛の申し出をいただきました。内訳としては、共催セミナー10社、企業展示24社、書籍展示3社、広告掲載15社、寄付3社、助成2法人、でした。

2. 学術集会開催に向けての準備

集会長以下、合計18名で構成される企画委員会を設置しました。各委員は事務局、プログラム、広報・渉外、会場運営、懇親会、の役割に分かれ、担当ごとに小委員会を組織しました (図5)。全委員が集まる企画委員会は第1回目を平成25年2月1日に開催し、以降毎月1回のペースで15回にわたり会議を行いました。この間、各小委員会ではスケジュールに沿って必要に応じて会合を重ね準備を進めました。広報活動の一環として各委員は学術集会の開催日時やロゴの案内が入った名刺を作成し、機会あるごとに精力的に広報を行いました。企画委員会には学術集会委託業者も運営事務局として参加し、企画実現に向けた調整等のサポートがなされました。

円滑に企画を進めるために、常に互いの作業の進捗状況を知り情報共有ができるような工夫も行いました。まず、メーリングリストを作成して全委員が相互に情報を発信し、意見交換できるようにしました。また、情報はクラウドを活用して作成したファイルをアップするようにし、誰もが常に最新の情報を確認できるようにしました。

図4 市民公開講演会のポスター・チラシのデザイン

こうして迎えた学術集会当日、企画委員の多くがプログラムの演者や座長を兼務しながら運営に従事しました。運営スタッフの実行委員・ボランティアの方々には、前日のオリエンテーションから当日の業務にかけてご活躍いただき、感謝しております。

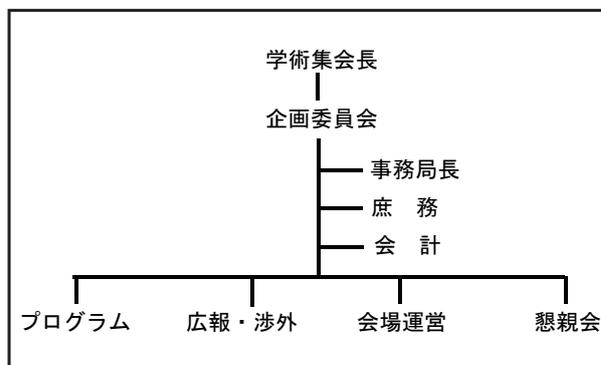


図4 市民公開講演会のポスター・チラシのデザイン

企画委員会の構成員

- 学術集会長 明石 恵子  
 (名古屋市立大学看護学部)
- 事務局長 鳶田 理佳  
 (名古屋市立大学看護学部)
- 庶務 森木 ゆう子  
 (摂南大学看護学部)
- 会計 丸谷 幸子  
 (名古屋市立大学病院)
- 伊藤 裕子  
 (名古屋市立大学看護学部)
- プログラム委員 伊藤 聡子  
 (神戸市立医療センター中央市民病院)
- 濱本 実也 (公立陶生病院)
- 小島 朗  
 (名古屋大学医部附属病院)
- 角 由美子  
 (名古屋第二赤十字病院)
- 広報・渉外委員 薊 隆文  
 (名古屋市立大学看護学部)
- 深田 栄子  
 (名古屋市立大学病院)
- 峯 惠  
 (名古屋市立大学病院)
- 奥田 晃子  
 (名古屋第二赤十字病院)
- 会場運営委員 清水 真名美  
 (名古屋市立大学病院)
- 鈴木 伴枝  
 (名古屋市立大学病院)
- 大野 美香  
 (名古屋医療センター)
- 懇親会委員 小倉 久美子  
 (愛知医科大学看護実践研究センター)
- 竹中 利美  
 (半田市立半田病院)



写真1 集会長講演



写真2 講演会場



写真3 ポスター会場



写真4 実演によるセッション



写真5 企画委員会